

# 地歴 問

## 地理歴史等

平成 26 年度（前期日程）

### 注 意 事 項

- 1 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 1 冊(本文 31 ページ、下書用紙 2 枚)で、解答用紙は 1 枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。
- 3 すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 50001 番の場合 → 

5	0	0	0	1
---	---	---	---	---

- 4 1) 世界史, 2) 日本史, 3) 地理, 4) 倫理, 政治・経済, 5) ビジネス基礎, 以上 5 科目のうちから 1 科目を選んで答えなさい。さらに選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 → 

					2
--	--	--	--	--	---

- 5 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。

また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、洋数字及びアルファベットに限り、1マスに2文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。ただし、例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構いません。

# 日 本 史

I 次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問5まですべてで400字以内)

応仁の乱に始まる争乱の時代のなかで、仏教は、武士・農民・商工業者などの信仰を得て、惣村や都市に広まっていった。さらに17世紀になるとすべての人がどこかの仏教寺院に属することになり、先祖の供養を行いたいという人々の欲求に応えた。こうして、仏教は多くの人々の心の救済を説くものとなったのであるが、最初からそうであったわけではない。

たとえば、7世紀後半から8世紀半ばにかけて、仏教は、災害・飢饉・疫病などの社会不安を背景に、国家の安泰を願って導入されていった。

10、11世紀になると、やはり災害・飢饉・疫病などの社会不安と  を背景にして、現世の不安から逃れ来世で救われたいという教えが大流行した。しかし、それは都の貴族を主たる対象としたものであり、一般の人々の心の救済を説くものではなかった。

問1 応仁の乱に始まる争乱の時代のなかで、浄土真宗が地方的展開をするが、その過程を説明しなさい。その際、布教の中心的な担い手(人名)、布教の方法・組織をあげなさい。

問2 下線部(a)を何というか。また、これは、幕府による政策として強制されたという側面も持っているが、幕府の政策と、その背景を説明しなさい。

問3 下線部(b)のような思想をなんというか。また7世紀後半から8世紀にかけて仏教が受容されていく過程を説明しなさい。

問 4 空欄(c)に入る適切な語句をあげなさい。下線部(d)の教えをなんというか。これを唱えた代表的論者とその著作をあげなさい。また、この教えは、建築や美術にも大きな影響を与えたが、代表的な建築・美術作品を一つあげなさい。

問 5 10, 11 世紀の貴族の食事は、庶民のそれとは異なるものとなったと言われているが、どう異なるのかについて、簡単に説明しなさい。

Ⅱ 次の史料は、「オッペケペー節」の一節である(一部の表記を改めている)。これを  
読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

権利幸福きらいな人に 自由湯をば飲みたい

オッペケペー オッペケペッポーベッポーポー

堅い上下角とれて マンテルズボンに人力車 <sup>かしも</sup>いきな束髪ボンネット

(a) 貴女に紳士のいでたちで うわべの飾りはよいけれど 政治の思想が欠乏だ

(b) 天地の真理が解らない 心に自由の種を蒔け

オッペケペー オッペケペッポーベッポーポー

問1 「自由童子」とも名のり、「オッペケペー節」を歌って大流行させた人物の氏名  
をあげなさい。

問2 下線部(a)は、どのようなことを象徴的に表現していると考えられるか、具体  
的かつ簡潔に説明しなさい。

問3 下線部(b)は、当時のある政策への直接的な批判がこめられていると考えられ  
るが、それは何を目的としたどのような政策か、説明しなさい。

問4 「オッペケペー節」を大流行させた人物の一座は、1900年のパリ万国博覧会  
をはじめとした欧米での公演によって、より広く知られるようになる。「壮士  
芝居」などとも称される、こうした演劇が登場してくる政治的な背景と意味に  
ついて説明しなさい。また、あわせて演劇史上における意味についても説明し  
なさい。

Ⅲ 次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

美濃部達吉の天皇機関説は、1910年代の憲法論争を経ながら、学界はもとより政界・官界・司法界など広く通説として定着していた。にもかかわらず、1934年秋ごろから軍部・右翼などにより天皇中心の国家体制に反する学説として批判が加えられた。1935年には、美濃部は貴族院で「学匪」と弾劾され、不敬罪で告発されることになる。これを機に広範で強力な機関説排撃運動が展開され、政府は、同年、国体明徴声明を出し、天皇機関説を否認した。

問1 文中にある憲法論争にも触れながら、下線部(a)の天皇機関説を説明しなさい。

問2 下線部(b)の政府の首相をあげなさい。

問3 天皇機関説事件は学問への統制を本格化させる契機となった。これに先だって起きた大学の学問自治が侵害された事件をあげて、その内容を説明しなさい。

問4 学制以降1930年代までの日本の大学の歴史について、教育制度の変遷を踏まえながら説明しなさい。その際に、以下の語句を含めること。

森有礼、帝国大学、大学令、単科大学